

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	単価の動き	・高額商品の動きがやや良くなってきた。
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・1月は新春初売りもあり、客の購買意欲が高まった。売上も前年比125%となった。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金終了後の谷間が過ぎて、ようやく上向きになってきた。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・単価は良くないが、来客数は伸びている。新車納車後の用品購入や車検入庫台数の増加が要因である。ただ、オーディオは価格が下がっている傾向にあり、一概に景気が良いとは言えない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・1月は雪が多く、道路の除雪も悪く、車が渋滞し走りづらかったため、タクシーの売上は前年より減っている。ただ、電話での注文が増えており、客の声を聞いても少し景気が良くなっているという話が多い。
		タクシー運転手	販売量の動き	・年末から年始にかけての動きや、季節要因である寒さによる面もあるが、前月と同様に、消費の動きがやや強くなっていることで、受注量、売上とも、やや良くなっている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・観光客の減少が始まった3か月前と比較すると、帰省客の飲食や新年会などがあったことから、タクシーの売上は約9.4%の伸びとなった。また、前年と比較しても、約3%の売上増であったため、やや良くなっている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・前年を5%上回る売上となり、明らかに数か月前とは雰囲気異なってきた。商品も1ランク上のものに興味を持ち、説明を聞いてくれる傾向がみられる。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・年末年始にかけての株高円安で、客のムードが大変良くなっている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに訪れる客の数が増加しているが、それ以上に客の質が高い。冷やかし客は皆無であり、モデルルームを見学する前に、自分でマンション購入に関する勉強をしに来る客も多い。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・1月はバーゲン月であったが、防寒物など、単価の高い商品の買い渋りがこれまでと同様にみられたほか、ニットやスカートなどの単品の売上も、前年と比べてもあまり良くなかったため、状況は変わっていない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・全体的に良くも悪くもないという雰囲気にある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・バス及び自家用車の使用状況を確認する限り、今月の中旬以降、主要購買層である中・高齢者の来街が低調である。比較的暖くなる昼の時間帯も、カラオケなどの遊興施設を利用している買物袋を持たない若年層がみられる程度である。中心部のスーパーが中旬に閉店したことが影響しているとみられる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今年の北海道は、大雪、極寒という気象状況により、客が外出を控えている傾向がみられ、消費に多大な影響を及ぼしている。現在も、積雪による道路幅の減少により通行障害が多発していることで、バスや自家用車での外出が減っており、中心商店街は大打撃を受けている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・今月は、例年にない寒波の襲来で天候の荒れている日が続いているため、交通寸断などが多く、来客数が落ち込んでおり、売上に悪影響を与えている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・前年の10月以降、売上にブレーキがかかっている状況が続いている。年が明ければ、やや良くなるのではないかと期待していたが、最終的にはあまり良い売上ではなく、まだ前年の秋以来の悪い状況が続いている。
	百貨店（売場主任）	単価の動き	・1月20日までの全店の売上は前年比93%であり、前月の前年比94.9%と比べて落ち込んでいる。買上客数も前年比93%となっており、前月の前年比102.9%よりも落ち込んでいる。	

百貨店（役員）	販売量の動き	・日本経済全体では、円安、株高等に浮かれた感があるが、消費の現場では足元の動きが良くなっている実感はない。逆に、円安によるガソリンを含めた原材料の高騰が家計を圧迫し、消費が落ち込む要因となるのではないかと不安である。
スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は増えているが、買上点数が伸びていない。世間で騒がれているような景気の上昇は、北海道ではまだみられない。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・基本的に客の消費スタンスは変わっておらず、財布のひもは依然として堅いようである。マスコミでは高価格帯に明るい兆しがあるかのように報道する場面がみられるが、地方ではまだまだである。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・株式市場の盛り上がり、為替の円安傾向などがみられるが、店頭での来客数は依然として厳しい状況が続いており、顧客の消費行動に好転の兆しが見えてこない。
スーパー（役員）	来客数の動き	・月初より大雪に悩まされており、特に大型店舗など、商圈の広い業態では来客数が前年比で4～5%減少している。雪の多さに加えて、除雪が行き届かないことが問題となっている。客単価は、前年比で2%程度高くなっているものの、来客数の落ち込みが売上を落としている要因となっている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・12月以降、低温と積雪の影響で、夜間と深夜の来客数が減少している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候要因もあるが、早朝を中心に来客数が減少している。
家電量販店（経営者）	販売量の動き	・LED照明は省エネ商品ということで好調に売れているが、テレビの販売の落ち込みをカバーするまでには至っていない。価格下落と販売量の落ち込みが重なり、依然として状況は厳しい。
家電量販店（店員）	お客様の様子	・お正月の初売りは前年とほぼ変わらなかったが、1月後半にかけて、前年を下回ってしまった。
家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・前年の地上デジタル放送への完全移行後の初売りセールよりは好調であったが、依然として単価が低く、全体としてはほぼ横ばいの売上であった。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・店舗により多少の違いがあるものの、ショールームに来る客がめっきり少なくなっている。また、新車に試乗した客であっても、乗換えは中古車にと言われるケースが増えている。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・前年は新商品が出た時期であったため、単純に比較できないが、前年後半から客の動きや販売量に大きな変化はみられない。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・石油価格の高騰により、客の節約志向が強まっている。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・毎年のことであるが、歳末商戦や正月商戦で出費がかさんでいるため、1～2月は来客数が減り、消費も控えらる傾向にある。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今月は中旬から下旬にかけて悪かった。観光客らしい客は少なく、特にディナータイムはひどかった。イベントやフェアを企画しても、その時は客が入るが、それ以外の日は閑散としている。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・政権が変わり、色々な景気対策が取りざたされているが、地方まで波及するにはまだまだ時間がかかる。また、今年はとても寒い中、重油、ガソリンが値上がりしているため、食にかけるお金が減少している。
スナック（経営者）	来客数の動き	・売上も来客数もあまり変わらないが、今度宴会をするとか、今度飲みに行くとか、今度繁華街に出るとか、そういう明るい声がかかなり多くなってきている。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・外国人観光客は台湾を中心に回復しているが、国内旅行客の回復が遅れている。北海道内からの個人客はインターネット予約を中心に着実に増加しているが、道外からのツアー客が漸減している。
タクシー運転手	来客数の動き	・注文数は前年並みであるものの、問い合わせが減少している。
通信会社（企画担当）	お客様の様子	・春の新入学、新社会人の商戦時期にもかかわらず、商品、サービスに対する客の期待が競合他社に向けたままである。

		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・厳冬期を迎えて、旅客、車両輸送ともに輸送量が減少している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・特に目立った動きがみられない。
やや悪くなっている		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今月は非常に寒い日が続き、前半はコート関連の防寒用品の売行きが良かったが、後半は降雪の影響もあり、来客数、売上ともに減少している。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・月半ばからの連日の雪による交通機関のまひに加えて、日常の雪かきに追われることなどから、市内中心部への来街者が減少している。特に、高齢者でそうした傾向が顕著にみられることで、午前中の来客が少なくなっており、来客数が減少傾向にある。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・これまで客単価の上昇が、来客数の減少を補っていたが、今月は客単価の低下が顕著である。動員企画を実施することで、期間中は来客数の増加がみられ、波及効果として売上も増加したものの、企画終了後は来客数が前年を下回る傾向がみられた。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・デフレ脱却に向けて追い風が吹いてきているのかもしれないが、実際には、依然として売上の落ち込みが大きく、前年割れが続いている。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・年明け以降、野菜が高騰していることへの対策として、すべての食品に対する支出を節約しようとする傾向が強まっており、消費全体が減退している。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・年末の忘年会が少なかった分、新年会が増えるのではないかと期待していたが、予想が外れて前年を下回った。また、月前半の荒天の影響により、来客数が落ち込んだ。月後半になり、来客数は持ち直したものの、月全体では売上が上がらなかった。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・需要を喚起するようなイベントの開催がないこともあり、個人客、団体客とも動きが鈍く、週末も満室にならない状況にある。近隣の東南アジアからの旅行者は横ばいで推移している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・1月28日までの利用客数は前年比91.8%であり、東日本大震災前の2010年度と比較した前々年比は81.9%となっている。
		パチンコ店（役員）	単価の動き	・北海道では4月まで暖房が必要であり、灯油需要も高いために、今回の値上がりは消費者にとって大きな負担である。また、電気料金の値上げが計画されていることも影響している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・初旬は年末に引き続き、来客数、客単価とも好調であったが、月末にかけて下降気味となっている。
悪くなっている		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・1月は購買意欲が厳しい月であった。年金月以外は苦戦が続いており、風邪やインフルエンザによる需要は完全に病院に取られている。
企業動向関連 (北海道)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円安で輸出環境が整ってきたことに加えて、消費税増税前の駆け込み需要によって市況が改善している。
		建設業（従業員）	取引先の様子	・医療関連施設の耐震診断を2015年までに完了させる前政権の方針や、耐震改修を推進する新政権の方針により、耐震診断や建て替え検討の引き合いが多くなっている。
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量が増加傾向にある。販売価格も多少ではあるが、以前に比べて上がっている。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・主要取引先である建設業者が、政権交代にともなう公共工事の発注増に期待感を抱いている。建設業は当地の基幹産業という側面があり、関連する産業が多岐に渡るため、総合的な景気底上げの原動力になる。
変わらない	食料品製造業（団体役員）	それ以外	・円安への移行がみられるものの、現状では、原油や電気料金の高騰を始めとして、消費者生活に与える経済的な影響が改善されておらず、どちらとも言えない状況にある。また、寒波と大雪のため、野菜や生鮮食料品が、例年と比較して3～5割ほど高騰しており、消費生活に少なからず影響が生じている。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・年明け以降、主要貨物である、紙製品、医薬品、飲料品、農産物、林産品の本州向け輸送に大きな変化はみられない。	

		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・季節要因もあるが、荷動きに大きな変化はみられない。
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備投資は医療福祉施設の増設やメガソーラーの建設などで底堅い。住宅投資も高齢者向けの賃貸住宅の建設が活発である。しかし、例年にない寒波と大雪で客足が鈍るなど、個人消費がマイナスとなっているほか、物流も停滞を余儀なくされている。
		司法書士	取引先の様子	・現時点において、大きな変化はみられない。
		司法書士	取引先の様子	・ガソリン、灯油の値上がりとともに、寒さと降雪の影響で移動にかかるガソリンの消費が多くなっており、急がないものは後回しされる状況にある。このため、不動産の取引も動きが鈍く、雪解けを待つ状態である。
	やや悪くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末需要の反動で、消費が極端に弱くなっている。
		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注量が減っており、生産調整が必要になってきている。
		司法書士	取引先の様子	・例年と比較しても、土地の売買、建物の新築が少ない。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・今後の景気を様子見しているのか、年度末に向けて、仕事量が減ってきている。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・年末年始にかけて稼働日数が少なかったせいか、消耗品関連を中心に売上が伸びず、苦戦している。
	悪くなっている			
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(北海道)	やや良くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・年明けすぐの求人ニーズは、政権交代後の動向を見定めるかのようなゆったりとした動きでスタートした。中旬になり、本格的な募集活動が始まり、前年から引き続き建設系や貨物運送が堅調に推移している。また、飲食や小売などの個人消費も順調である。飲食店は新規店も数多くオープンしている。IT関連ではスマートフォンや金融系のソフト開発などのニーズが多く出てきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で10.3%増加し、35か月連続で前年を上回った。また、月間有効求人数も前年比で15.3%増加し、35か月連続で前年を上回った。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者の希望する条件と、求職者のスキルが合っていない。身の丈以上の仕事で条件の良いものを選んでいないため、仕事が決まらない又は決まってもすぐに辞めるミスマッチが多くなっている。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数は前年と比べて若干の伸びがみられるものの、求職者のスキルとキャリアのミスマッチも多く、判断に難しい面がある。
		求人情報誌制作会社（編集者）	雇用形態の様子	・現状は3か月前と大きく変わっていないが、地域経済自体は、地元の有力な産業もなく、やや弱含みとなっている。求人数や求職者数などもほぼ横ばいで推移している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年比115%と引き続き堅調に推移している。一方、出稿社数は前年と比べて微増している。出稿のある企業のうち、今年の新規と、前年実績先で今年の出稿がない企業はきつ抗しており、約70%の企業が入れ替わっている。引き続き地元企業からの出稿がコンスタントに得られており、特に小売業、飲食店、地元土木建設業関連の求人が増加している。
		職業安定所（職員）	それ以外	・12月の管内の有効求人倍率は0.59倍と前年を0.12ポイント上回っており、管内内としては高い水準にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・建設業における求人提出事業所数は、前年と比べ大きく増加しているものの、求人数が増加していない。一方、グループホーム等の福祉施設で、3～4月の新規開設にともなう求人がまとまって出ている。新規求人の増加は介護や医療の分野だけであり、全産業に広がっているわけではない。

	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・12月の新規求人数は前年比で23.8%の増加となった。新規求職者数は前年比で11.7%の減少となった。月間有効求人倍率は0.74倍となり、前年の0.55倍を0.19ポイント上回った。新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は46.4%と求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	・変化は感じられない。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-